

富士見町議会行政視察報告書

平成26年7月16日

富士見町議会

議長 織田 昭雄 殿

総務経済常任委員会

委員長 五味 平一

社会文教常任委員会

委員長 名取 武一

平成25年6月定例議会において、決議された閉会中の議員派遣の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

テーマ 市民参加による学校施設の再利用について

- ① 氷見市の新庁舎整備の歩みと概要
- ② 建物の基本情報と事業費
- ③ 新庁舎のアピールポイント
- ④ 市民参加による学校施設の再利用の効果と課題

視察先 富山県氷見市

実施期日 平成26年6月23日（月）

氷見市の歩みと概要

富山県氷見市は、温暖な気候と美しい自然、豊かな海の幸、山の幸に恵まれた歴史古い市である。有史以前から人の生活が営まれ、多くの古墳群が発見されている。戦国時代には越中の佐々成政勢と加賀の前田利家勢との戦火により、加越能三国が前田氏により統治された。明治時代には、工業の近代化が図られ製針工場やセメント工場等ができた。昭和に入ると、地方自治体の再編成が国策として断行され、町村合併が推進された。昭和27年8月1日、旧氷見町に3か村が合併して市政を施行し、さらに28年、29年には残り14か村が合併して全国にもまれな一郡一市が誕生した。
現在の人口は51,100人である。

① 氷見市の新庁舎整備の歩みと概要

平成23年10月 旧市庁舎の耐震診断及び、津波の避難場所調査を開始

- 平成24年 3月 震度6クラスで崩壊の危険があると耐震評定された
整備方法として、庁舎の補強、新築、旧市民病院の改修、敷地内での
新築、県立高校の校舎棟の改修、敷地内での新築、県立高校の体
育館の改修等の検討の結果、体育館を改修することに決定。
- 平成24年 6月 市議会において市庁舎整備検討委員会を設置
- 10月 市議会において、市役所設置条例と移転整備事業費を可決
- 12月 整備高治基本、実施設計業務に係るプロポーザルを実施
- 平成25年 6月 新市庁舎デザインワークショップを開催
4回開催 合計245名の市民の参加により意見を聞く
- 9月 工事着工
- 12月 新庁舎の花と緑のデザインを考えるネットワーク会議を開催
- 平成26年 4月 建築本体工事完了
- 5月 開庁式

② 建物基本情報と事業費

本庁舎部分

- A 棟 旧第二体育館 SRC造2階建 2042㎡
1階 地域協働スペース
2階 議場 全員協議会室 その他議会関係
- B 棟 旧第一体育館 SRC造2階建 2960㎡
1階 市民課、福祉介護課、子育て支援課、税務課、会計課他
- C 棟 旧校舎棟 RC造3階建 1609㎡
1階 農林畜産課、農業委員会、いのしし棟対策課、建設課他
- D 棟 エントランス棟 S造2階建 新築 165㎡
1、2階ともエレベーターホール他
- E 棟 A棟、C棟結節 S造2階建 新築 249㎡
公用車車庫、廊下他

附属建物部分

- F 棟 旧武道場 S造 404㎡
倉庫他
- G 棟 旧記念会館 RC造2階建 373㎡
市民会議室他

建設事業費

- 工事請負費 1,575,444千円
- 設計等委託料 50,321
- 用地費 300,000

| | |
|------|-------------|
| 事務費等 | 12,998 |
| 合計 | 1,938,763千円 |

③ 新庁舎のアピールポイント

(全体について)

1. 体育館と校舎を市庁舎に活用する、全国的にも類を見ない事例であり、整備費用の低減とともに、地球環境の負荷の抑制などの事業効果も併せ持った庁舎であるとしている。
2. 市庁舎の整備にあたり、体育館の現場を使って市民と行政が協働して考える、新市庁舎デザインワークショップや市民のアイデアで庁舎前の空間の植栽プランを検討する「花と緑のデザインを考えるネットワーク会議を開催した。市民との対話が随所で形になった、全国でもモデルとなりうる新庁舎となったとしている。

(A棟)

1. 3色の地域協働スペースは、青、緑、黄のイメージカラーを配し、自由にリラックスした雰囲気の中で、市民から活発な議論を引き出し、行政との協働によって発展的な提案を作り上げる空間として活用している。
2. 子育て家族に優しい授乳室やおむつ交換室を整備している。
3. 2階議場は壁面に氷見市産の木材を使用し、ぬくもりあるデザインとした。

(B棟)

1. ワンストップ・ワンフロアサービスとして、窓口サービス部門を同じフロアに配置し、移動の負担を軽減し、転入、転出、出生等の手続きは、最初の窓口で済ませることができるワンストップサービスを開始する。
2. 相談に訪れた皆さんのプライバシーを守り、落ち着いて話することができる相談室を6室に増やした。
3. 一部を除き天井材を貼らずに、吸音材を吹き付けてある。
4. センター、キャンプ、と名付けた対話が生まれる創造的な空間を配置した。
5. 軽量テント幕を使った曲面天井を整備し、空調、採光を活かした快適空間を作っている。

(C棟)

1. 校舎棟全体に耐震工事を行い、執務空間として教室を活用している。
2. 旧校舎の物品を使い市民と職員がワークショップでベンチ等を再生した。

④ 市民参加による学校施設の再利用による効果と課題

新市庁舎デザインワークショップを開催して多くの市民の意見を参考に、行政との

協働により作り上げられた建物となっている。完成移転して1か月程しか経過していないので、利便性についての評価は出来ないとしている。

今後の課題として対話が生まれる創造的な空間を、プレゼンテーションやワークショップとして誰もが集い、新たな気付き・発見や学びの場とするなどの活用が課題となるとしています。

(文責 三井新成)

